

赤十字NEWS in 徳島

ご協力をお願いします

赤十字の人道活動は皆様方の

日本赤十字社活動支援費(日赤社費)で行われています

発行所 日本赤十字社徳島県支部
〒770-0044 徳島市庄町三丁目12番地1
TEL 088-631-6000
FAX 088-631-6100
URL <http://www2.tcn.ne.jp/~jrcawa1/>

平成23年7月発行 第25号

特集 東日本大震災

総力をあげ被災者救援活動を実施

3月11日14時46分、マグニチュード9.0、最大震度7という大地震とそれに伴う大津波が東日本を襲いました。

この未曾有の大災害に対し、日本赤十字社徳島県支部では翌日から超急性期災害派遣医療チーム「徳島日赤DMAT」と医療救護班を被災地へ派遣しました。

■医療救護班第1班の活動

当支部の医療救護班第1班は救護車両3台で岩手県に入り、避難者1,265名が身を寄せ合っていた岩手県立山田高等学校に救護所を開設しました。開設後、救護所を訪れた多くの被災者へ、電気・水道などのライフラインの途絶える中、限られた薬品を用いて懸命の救護活動を行いました。



被災地に向け出発する超急性期災害派遣医療チーム「徳島日赤DMAT」

■継続的な医療支援体制を確立

その後も被災者を継続して支援するために、徳島赤十字病院をはじめ、ひのめ総合療育センター、血液センター職員からなる救護班を編成。3月31日までの間、山田高等学校救護所へ計5班48名を派遣し、継続的に救護活動を実施しました。

そして、4月からは活動拠点を岩手県から宮城県へと移し、現在も石巻市内に点在

発災直後から医療救護班が出動



山田高等学校で診療を行う第1班 蔵本俊輔医師

する避難所への巡回診療を展開しています。6月30日現在、救護班計11班98名を被災地へ派遣しています。

■石巻赤十字病院などへの支援員派遣

また、多数の患者が殺到し病院機能が麻痺状態となっていた石巻赤十字病院へ徳島赤十字病院の看護師・事務員等を多数派遣したほか、日本赤十字社初となる介護チームの派遣や、被災者等に対するこころのケア要員を派遣するなど、当支部の全勢力をあげた被災者救援活動を実施しております。



大きな津波被害を受けた宮城県石巻市

日赤初となる介護支援チームを派遣

被災地の介護施設では、自身が被災者である職員も、24時間体制で要介護者の介護にあたっています。

このような施設への支援策として、今回日本赤十字社として初



あたたかいホットタオルで入所者の疲れを癒す

めて「介護チーム」を派遣することとなり、4月14日から、当支部管下徳島赤十字ひのめ総合療育センターの介護職員7名を含む67名の介護チームを岩手県陸前高田市や大槌町へ派遣しました。

同チームは現地の介護職員に代わり入浴介助などを行ったほか、日本赤十字社が行っている「健康生活支援講習」を避難所で開催し、避難者の健康維持を図りました。



入所者の洗髪を行う当支部の介護チーム 岡田恭典さん

こころのケア班、被災地へ

災害によるストレスは、被災者はもちろん不眠不休で支援を行う現地職員および救護班にも大きな負担となります。

このような状況の中、当支部からも日頃から災害時等のストレス対応について研修を受けている「こころのケア要員」の派遣を行い、避難所を巡回し被災者一人ひとりに声かけを行ったり、石巻赤十字病院内に設けられたリフレッシュルームでこころのケアを実施するなどの活動を行いました。

避難所内では、「自分だけではないから」と、なかなか自分の体験や不安について話ができない被災者も多く、こころのケア要員がそういった方々の話を傾けることで、メンタルケアを行いました。声をかけると、涙を浮かべなが



避難所で被災者1人ひとりに声かけを行う看護師

「心温まる徳島の郷土料理に被災者もニッコリ」
～1,800食を宮城県気仙沼市で炊き出し～

大震災から2ヶ月が過ぎた5月12日・13日、当支部では地域赤十字奉仕団員や防災ボランティアなど計15名で炊き出し支援隊を結成し、宮城県気仙沼市の小原木中学校避難所で炊き出しを行いました。

在宅避難者を含め400名以上の被災者があたたかい食事を心待ちにしているとの情報を受け、災害用移動炊飯器3台



災害用移動炊飯器で阿波牛の牛丼を調理する徳島県の赤十字奉仕団員

炊き出し支援隊 参加者からの報告

炊き出し支援活動に参加して

徳島市地区赤十字奉仕団 一宮分団 中畑 英美子

「がんばろう、日本。」テレビや新聞などで目にするこの励まし。一体感をもつこのことばに「私に何ができるだろうか。」炊き出し支援活動の話があったのはそれから間もなくであった。



阿波牛の牛丼を炊きだす中畑さん(左)

5月11日、日本赤十字社山形県支部で、徳島県支部と山形県支部の両支援隊は合流し、双方の献立などを打ち合わせ、互いに協力しあい食材・資材をトラックに積み込んだ。

12日は午前5時に山形県の宿舍を出発。仙台から石巻、南三陸町、気仙沼市にかけての被災地では復旧活動を行う自衛隊の姿も見られた。震災から2ヶ月が過ぎた今でもまだ悲惨な光景は変わらず、涙がどっとあふれた。

道路事情などで避難所への到着が予定より遅れたが、食材は事前に仕込んで行ったので、昼食はスムーズに提供できた。

12日の昼食・夕食ともに徳島県産の食材をふんだんに使ったメニューを提供したが、夕食の準備にかかった頃、雨が降り出したため急遽テントを張って調理し、夕食を提供した。

13日は山形県の奉仕団員が考えた献立で朝食、昼食を調理し、徳島・山形両県の協力で炊き出し支援は無事終わった。

避難所の朝の光景。高台にある校庭より降りて道路に並び立ち、道行く人や車にあいさつをしている小原木中学校の生徒の姿に接した時、「力強く生き抜いてほしい。」と念じつつ気仙沼を後にした。

この貴重な体験をさせていただいたことを今後の生きる力としたい。



避難所の方々に阿波牛の牛丼とすまし汁を提供

発災後、肉や魚、新鮮な野菜をほとんど口にしていなかったという被災者の方々は、「こんななんめえ牛丼、久しぶりに食べたさあ。」とか「わざわざ徳島から来てくれてありがとう、本当においしかったよ。」などと話しながら、久々の家庭的で温かい料理に被災者の顔には笑顔が溢れていました。



【夕食メニュー】しらすわかめご飯・阿波尾鶏の唐揚げ・サラダ・そば米汁・鳴門金時の大学芋

被災地への思いとともに
集まる義援金

災害発生直後から、被災地の悲惨な状況を知った県民の皆様から「少しでも被災者の支援をしたい」との思いとともに、多くの義援金が当支部へ寄せられました。

また、赤十字奉仕団員や有志ボランティアの方々も当支部に駆けつけ、義援金受付のお手伝いや大混雑となった駐車場の整理などに協力をいただきました。

寄せられた義援金は全額、日本赤十字社本社を通じて被災都道県に設置された「義援金配分委員会」に送られ、配分割合に応じて、被災者のもとへ届けられています。



義援金受付にボランティアにもご協力いただきました

■東日本大震災義援金の受付状況

日本赤十字社徳島県支部受付状況(6/20現在)	6,543件	14億5,392万3,933円
日本赤十字社全国の受付状況(6/17現在)	234万2,613件	2,482億9,890万6,272円

現在までの
活動のまとめ

■東日本大震災に対する日本赤十字社徳島県支部医療救護班等の派遣状況

派遣チーム名	派遣数	活動期間	活動場所
徳島日赤DMAT(超急性期災害派遣チーム)	1班 5名	3月12日～3月13日	花巻空港SCU(Staging Care Unit※)
医療救護班	11班 98名	3月13日～	3月まで 岩手県立山田高校 4月から 宮城県石巻市(巡回診療・石巻赤十字病院 等)
石巻赤十字病院支援要員	14名	3月25日～	石巻赤十字病院
介護支援チーム	7名	4月13日～7月1日	岩手県陸前高田市および岩手県大槌町の特別養護老人ホームおよび介護老人保健施設
こころのケア要員	7名	4月14日～	宮城県石巻市(巡回診療・石巻赤十字病院 等)
炊き出し支援隊	15名	5月12日～13日	宮城県気仙沼市 小原木中学校

※SCUとは、広域搬送拠点に設置する搬送患者待機のための臨時医療施設であり、症状安定化のための処置・広域搬送のトリアージ等が実施される。

災害時に気を
付けたい症状

エコノミークラス症候群(肺塞栓症)

車の中や狭い避難所等、からだを自由に動かせない状態で長時間過ごしたり寝泊まりした場合、足の血液の流れが悪くなり血の固まり(血栓)ができます。この血栓が剥がれて、足の静脈から心臓へと流れ、肺動脈で血管を詰まらせ、肺塞栓をおこす恐れがあります。軽い症状は、片側の足のむくみや痛み、重症になると、息が苦しくなり、胸の痛みを訴えて失神することがあります。

■予防のポイント

- 窮屈な場所で寝泊まりしない。
- 水分を十分に摂取する。
- 定期的にからだを動かす。

やむを得ず、長時間椅子に座っているときは、かかとの上げ下げ、ふくらはぎを軽くもむ等の足の運動をしましょう。



足の指でグーをつくる。



足の指を開く。



つま先立ちをする。



つま先を引き上げる。



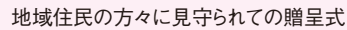
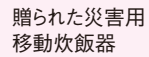
膝を両手で抱え、足の力を抜いて足首を回す。



ふくらはぎを軽くもむ。

去る5月22日、社会福祉法人小湊会（鳴門シーガル病院）様のご協力により、鳴門市の瀬戸地区へ災害用移動炊飯器（2台）を配備いたしました。

贈呈式には約200人の地域の
方々が集まり、地域の代表者から
「未曾有の大災害となった東
日本大震災も、港町である
我々、瀬戸地区にとつては他
人事ではない。災害用移動炊
飯器を地域での防災力向上に
役立てていきたい。」とお礼
の言葉が述べられました。

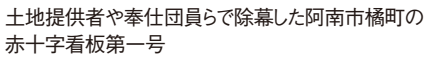


贈呈式終了後には、早速配備した移動炊飯器を使用しての炊き出し訓練や当支部救護班員による東日本大震災についての講演が行われ、集まった方々は真剣な表情で耳を傾けていました。

「赤十字看板」設置

当支部では昨年11月18日、阿南市橘町の国道交差点沿いに赤十字看板を設置しました。

看板は縦5・8メートル、幅1メートルの三角柱で、赤十字マークに「あなたの赤十字活動支援費が守るいのちと健康、尊厳」という、日本赤十字社の使命と「日赤社費」ということを分かりやすく表現したスローガンが記載されている。



ます。

看板の設置にあたっては、県内全市町村の赤十字組織や赤十字奉仕団員などへ設置場所の提供を広く呼びかけました。

その結果、阿南市地区赤十字奉仕団橘分団の協力により、阿南市橘町の地域住民の方から、「赤十字のために土地を提供してもいい。」というありがたい返事をいただき、看板設置が実現しました。

このように地域の
方に遊休地を提供い
ただいて、独自に看
板を設置するのは全
国の赤十字では今回
が初めてです。

同様の看板は、本年1月にも三好市の池田町の国道32号線沿いに設置しました。

(取扱店→取りまとめ店)

- 一 この領収証は大切に保存して下さい。
- 二 本票をもって日本赤十字社徳島県支部の領収証とさせていただきます。
すのでよろしく願います。
- 三 右記取りまとめ店の本店ご利用の場合は手数料免除となります。



Together for humanity

人間を救うのは、人間だ。 2011年赤十字運動標語

7月は愛の血液助け合い運動月間です



人の生命を維持するために欠かせない血液はまだ人工的に造ることができません。また、血液は生きた細胞のため長期間にわたり保存することもできません。そのため輸血用血液は常に確保する必要があり、絶えず皆様の献血協力が必要になります。

夏場は血液の不足する時期です。そこで、全国の血液センターでは、7月を【愛の血液助け合い運動】月間として全国的にキャンペーンを展開し、血液を安定して医療機関に供給できるよう努めています。

どうか皆様もこの機会に献血にご協力をお願いします。

2011年
4月1日から

採血基準が改正となりました

★男性に限り400mL献血の年齢下限が17歳から可能になりました。

★男性に限り血小板成分献血の年齢上限が69歳まで可能となりました。

献血の種類 項目	全血献血		成分献血	
	200mL献血	400mL献血	血漿成分献血	血小板成分献血
1回献血量	200mL	400mL	300mL～600mL (体重別)	400mL以下
年齢*	16歳～69歳	男性17歳～69歳 女性18歳～69歳	18歳～69歳	男性18歳～69歳 女性18歳～54歳
体重	男性45kg以上 女性40kg以上	男女とも 50kg以上	男性45kg以上 女性40kg以上	

* 65歳から69歳までの方は、60歳から64歳までの間に献血経験がある方に限ります。

被災地の献血支援報告

この度の大震災の影響により、東北地方（岩手・宮城・福島）での献血が停止しました。

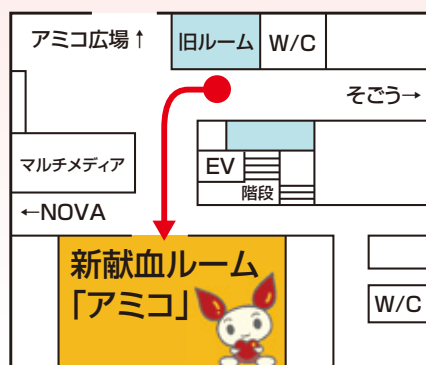
それにとまって全国から血液支援をおこない、徳島からも震災直後から5月末まで、毎日12人分の輸血用血液を支援しました。



献血へのご協力
ありがとうございました。



窓からは眉山が見渡せます。



献血ルームが新しくなりました!!

平成23年4月1日、献血ルーム「アミコ」は、同じアミコビル3階の南側に移転し、今までの3倍の広さ(305㎡)になり、採血ベッドも6ベッドから10ベッドになりました。

新しい献血ルームは、眼下に国道192号線・藍場浜公園を見下ろす位置にあり、広々とした採血室の窓からは太陽の光がやさしく差し込み、眉山の新緑と澄み切った青空、藍場浜公園のワシントンヤシなどが眺望でき、献血者もすがすがしい気分での献血していただくことができます。

また、待合・休憩スペースも広く、キッズコーナー、インターネットコーナー、ロッカーコーナーなどを設置し、ご自由にご利用いただけます。

皆様には、新しい「眉山の見える献血ルーム」にお越しいただけますよう、スタッフ一同お待ち致しております。

広く、新しくなった献血ルーム
アミコへ、ぜひお越しください!



<日本赤十字社徳島県支部管内の赤十字施設をご案内します>

・日本赤十字社徳島県支部事務局 徳島市庄町3丁目12-1 TEL:088-631-6000 ・徳島赤十字病院 小松島市小松島町字井利ノ口103 TEL:0885-32-2555
・徳島赤十字ひのみね総合療育センター 小松島市中田町新開4-1 TEL:0885-32-0903 ・徳島県赤十字血液センター 徳島市庄町3丁目12-1 TEL:088-631-3200
・徳島赤十字乳児院 小松島市中田町新開12-2 TEL:0885-32-0555